

プロジェクト I

人・企業があつまるまちづくりの推進

数値
目標

町内事業所の新規求人数

700 人 参考値：448人（令和3年度）
（令和8年度）

人口の社会増減

10 人 参考値：8.2人（平成29年度～令和3年度の平均）
（令和5～8年度の平均）

1. 商工業を活性化する

人口減少に歯止めをかけ、「人」の本町への定着や新たな転入を促進するためには、まずそこに生活の基盤となる「仕事」と日常生活に必要な「消費」の場があることが必要です。

本町は奈良県内のなかで製造品出荷額が最も高い町（市を含めると6～7位）です。このことは、本町が奈良盆地の中央に位置し、県内外からのアクセスが良好なことが要因の1つといえます。現在進行中の道路網が整備されれば交通アクセスは飛躍的に向上し、川西町にとって「人」の流れを呼び込む上で追い風になると考えられます。この利点を生かして、企業（工業系・商業系）を積極的に呼び込むことに取り組みます。

2 地域への新しい人の流れをつくる

本町は奈良盆地のほぼ中央に位置し通勤通学にも便利なまちです。しかし、本町の課題として情報発信の不足があげられます。タウンプロモーションの強化により、本町の魅力を知り、感じていただくことで他市町村からの居住者の流入・U I Jターンにつなげていきます。

1. 商工業を活性化する

(1) 企業誘致の促進

- 本町は奈良盆地の中央に位置します。今後大和中央道の延伸が予定されていることや、西名阪自動車道の「大和まほろばスマートインターチェンジ」が最寄りにあることなど、立地条件に恵まれています。この恵まれた立地条件を生かしながら、工業系事業者や商業施設などの誘致に積極的に取り組んでいきます。
- 企業の誘致促進のための優遇制度や奨励金の充実も図るとともに、既存の企業が本町にとどまり、継続的に事業運営が出来るよう支援をおこなうことで、しごとを生み出します。
- 女性をはじめとする意欲ある働き手の雇用の場をつくるために、社会福祉施設の誘致や立地支援をおこなっていきます。

主な
事業

P68 分野V-2 商工業
P70 分野V-3 企業誘致

K P I

町内の事業所数 ※再掲:P68

330 社 (令和8年度) 参考値: 333社 (令和元年度)

商業系・工業系の用途地域における立地企業数 ※再掲:P70

15 社以上 (令和8年度) 参考値: 15社 (令和3年度)

製造品出荷額 ※再掲:P68

850 億円 (令和8年度) 参考値: 818億900万円 (令和元年度)

(2) 雇用・労働の場の創出

- 雇用や労働の場の有無は移住・定住を決める際の大きな要素であり、雇用の確保は町外からの移住、町内における定住の促進につながります。町内企業への雇用促進を積極的に支援することで、雇用の場の創出を図ります。
- ライフスタイルが複雑化し、働き方の多様なニーズを満たす必要性が増しています。女性や子育て世代、高齢者などにとって働きやすい雇用を創出することで、多くの住民が働きやすい環境づくりをおこなっていきます。

主な
事業

P66 分野V-1 農業
P68 分野V-2 商工業
P72 分野V-4 雇用・労働

K P I

町内で就労している町民の人数 ※再掲：P73

1,200 人 (令和8年度) 参考値：936人 (令和2年度)

町内で就業している町外在住者の人数 ※再掲：P73

3,000 人 (令和8年度) 参考値：2643人 (令和2年度)

2. 地域への新しい人の流れをつくる

(1) 住まいの確保に向けた住宅施策の推進

- 本町の転出入の推移を見ると、宅地開発があった時期は転入超過となっており、宅地開発をおこなうことで転入者増に繋げることができると考えられます。特に20代後半～40代前半の子育て世代が住みたくなるような住宅地の供給を促し、転入者の増加を目指します。
- また、住宅地の供給のための宅地開発は開発できる土地が有限であるため、開発し続けることは困難です。しかし、活用されていない資産として、町内には多くの空き家があります。そこで、宅地開発を進めるとともに空き家を活用することで、限られた町の資産を上手く活用しながら、移住・定住者の増加に繋げていきます。

主な
事業

P44 分野Ⅲ-1 住環境

K P I

空き家バンク登録件数 ※再掲:P44

10 件/年 (令和8年度) 参考値: 10件/年 (令和3年度)

新規住宅宅地開発の区画数

60 区画 (令和8年度までに) 参考値: 0区画 (令和3年度)

プロジェクト I 人・企業があつまるまちづくりの推進
2. 地域への新しい人の流れをつくる

(2) 地域の魅力発信と認知度の向上

- ・ 奈良盆地の中心にあるという恵まれた立地条件、田園と調和した豊かな住環境、多彩な住民のスポーツ文化活動、結崎ネブカ・貝ボタンなどの特産品、島の山古墳や面塚などの観光資源の存在を本町独自の魅力として町内外に発信します。町民にとって本町で住むことが誇りになり、町外の方にとっては転入したいと思えるようにプロモーション活動を行います。
- ・ 広報紙などの紙媒体による広報活動に加え、ホームページやSNSなどのインターネットを活用した情報発信により、幅広い世代が行政情報・行政サービスにアクセスできる環境を整えます。

主な事業

- P66 分野V-1 農業
- P68 分野V-2 商工業
- P74 分野V-5 観光
- P80 分野IV-2 広報・広聴

KPI

公式SNSのフォロワー数 ※再掲:P81

2,250 人 (令和8年度) 参考値: 1,976人 (令和3年度)

広域連携で実施する観光イベントの参加者数 ※再掲:P75

12,000 人 (令和8年度) 参考値: 9,152人 (令和元年度)

(3) 中心市街地のにぎわいづくり

- まちの玄関口である結崎駅周辺を整備を進め、交通結節点としての利便性の向上を目指すとともに、駅へのアクセスの整備やまちの賑わいを創出します。

主な
事業

P56 分野Ⅳ-1 道路
P60 分野Ⅳ-3 公共交通
P62 分野Ⅳ-4 駅周辺整備

K P I

町の公共交通利用者数 ※再掲:P60

10,000 人 (令和8年度) 参考値: 7,621人 (令和3年度)

プロジェクトⅠ 人・企業があつまるまちづくりの推進
2. 地域への新しい人の流れをつくる

(4) シビックプライドの醸成

- 本町の文化や歴史について理解を深め、本町に住むことへの愛着や誇り（シビックプライド）を感じてもらうことにより転出者を抑えます。また、就学・就職で本町を出ることとなった場合でも、いつか戻りたくなる川西町を創出し、転入者の増加を図ります。
- 本町は能楽の観世流の発祥地であることから、能楽に触れ合う機会を積極的に設け、伝統芸能に対する理解を高めます。また、島の山古墳や面塚などの川西町独自の歴史文化史跡について学ぶ機会を設けます。

主な事業

P36	分野Ⅱ-4	生涯学習
P38	分野Ⅱ-6	文化・芸術
P40	分野Ⅱ-7	歴史
P52	分野Ⅲ-5	地域コミュニティ・住民協働
P66	分野Ⅴ-1	農業
P68	分野Ⅴ-2	商工業
P74	分野Ⅴ-5	観光
P80	分野Ⅵ-2	広報・広聴

KPI

住民提案型事業の参加団体数 ※再掲:P53

10 団体 (令和8年度) 参考値: 7団体 (令和3年度)

結崎ネブカの生産者数 ※再掲:P67

30 人 (令和8年度) 21人 (令和4年度)